

保護者と教員との共同をめざすPTA活動

—奈良教育大学附属小学校PTAを例に—

坂下伸一

(奈良教育大学附属小学校)

平賀章三・玉村公二彦

(奈良教育大学)

PTA activities toward cooperation between parents and teachers

—A case for the PTA in the elementary school attached to Nara University of Education—

Shinichi SAKASHITA

(Elementary School Attached Nara University of Education)

Shyozo HIRAGA, Kunihiko TAMAMURA

(Nara University of Education)

要旨：子どもの成長を保障するために保護者と教員とが共同し、学校づくりを進めていくことが学校教育の基本だといえる。しかし、今日の子どもと学校教育をめぐる厳しい状況のもとでは、保護者と教員とが共同して学校づくりを進めることには困難が少なくない。保護者と教員との関係は単純ではなく、緊張をはらんだものとなっている。そうした中では、PTAの活動が、学校づくりを進めるためのキーの一つだと考える。

奈良教育大学附属小学校のPTAは、本校が学校づくりのテーマとしている「みんなの学校」に基づきながら、不十分さはあるが、保護者と教員との共同を目指すために、活動を進めている。中でも「PTA研究会」という保護者と教員との学習の場を創り出し、学び合いながら、共同を創りだす活動を行っている。

キーワード：PTA (Parents and Teachers Association)

保護者と教員との共同 (cooperation between parents and teachers)

PTA研究会 (study group of PTA)

1. はじめに

近年、保護者と教員とのトラブルが話題となることが多い。保護者が「クレーマー」「モンスターペアレント」と揶揄されることも少なくない。こうした呼び方については、必ずしも賛成できないという意見もあり、それは保護者を一方的に決めつけることへの警告だと捉えることができる。いずれにせよ、学校教育現場では、保護者と教員との関係は緊張をはらんでいることは間違いない。こうした状況を打開し、保護者と教員との共同関係をどう創っていくかが求められている。

奈良教育大学附属小学校（以下、本校と略す）では、ここ数年、本校の学校づくりのテーマを「みんなの学校」としてきている。ここには、今日の子どもと学校教育をめぐる状況が反映されており、学校の本来のあ

り方についての思いが出ている。すなわち、学校教育は、社会が共同でおこなう事業（公的な性格）であり、学校は「みんなのもの」「みんなに開かれたもの」でなければならないということを強く意識したものである。その前提の下で、本校では「学校とは、子どもたちが人間的な自立に向うために、学力と人間らしさを培うところである」「そのために学校に集う関係者（保護者、教職員および地域の人々）が共同して学校づくりを進めていくことが必要である」と考えてきた。

本校では、PTA活動を、学校づくりテーマ「みんなの学校」を具体化していく中心的な取り組みの一つであり、そして、それは保護者と教員との共同関係を創る上で欠かせない活動でもあったと考えてきた。全国的には、PTA活動のあり方が大きく揺れている状況だと聞いている。そうした中で、PTAのあり方

を論議し、保護者と教員との共同を創り出す上で一助となればと考え、以下、本校のPTA活動の報告を行う。

2. 附属小学校のPTA

2. 1. PTA規約

本校のPTA規約は1955年に作られたものであり、会の目的については、その後、大きな変更はない。本校のPTAが、発足当初より学校づくりに参画してこうとする意思がうかがえるものとなっている。

奈良教育大学附属小学校PTA規約より

第二章 目的

本会は以下の諸項を目的とする。

- 一 家庭、学校および社会における児童の福祉を増進する。
- 二 民主教育に対する理解を深め、これを推進する。
- 三 学校の教育環境の整備をはかる。
- 四 公費による教育予算の充実を期するために努力する。
- 五 地域における社会教育の振興をたすける。
- 六 家庭と学校の緊密な連絡、会員相互の親睦をはかる。

2. 2. 年度方針

PTAの年度方針・テーマは、その学校PTAのあり方を端的に示しているものだといえる。本校では、PTA役員が、その年度の方針・テーマを提案し、実行委員会（委員の構成については後記）が承認し、決定する。

（年度テーマ）

- ・2006年度 来て、見て、いっしょに学ぼう！
～ Lets watch our children! ～
- ・2007年度 みんなでつくろう PTA
～ひとりひとり、力をあわせ、楽しみながら、PTA活動をつくりあげよう～
- ・2008年度 とともに育とう！PTA
～子ども、保護者、教員、みんなでさまざまな活動を通して成長していこう～
- ・2009年度 つなごうみんなの手！ひろげよう心のわ
～子ども、保護者、教員みんなの力をひとつにして、実りある活動にしていこう～
- ・2010年度 とともに育とう！PTA！
～子ども、保護者、教員、みんなでさまざまな活動をとおして成長していこう

ちなみに、2010年度のテーマ設定の趣旨を、PTA役員は、次のように提案している。

今年度（2010年度）の活動テーマについて

私たちの子どもたちはたくさんの人によって育まれています。それは先生方であり学校運営に携わる方々です。そして私たち保護者です。私たち保護者も学校をつくっていく大事な力なのです。ぜひ子どもたちのために学校づくりに参加していきましょう。たとえば自分の特技を活かしたり、いろいろなボランティア活動に参加したりして、子どもたちや先生方と一緒に輪をつくり、力を合わせ、実りある活動を行っていきましょう。

ここ数年、学校づくりへの参加を呼びかけ、PTA活動を創っていこうというテーマが多くなっている。

2. 3. 役員の選出

PTAの役員は、引き受け手がないということもあり、前年度の役員が推薦し、決定していくことが多いといわれている。本校も引き受け手の問題については例外ではないが、役員選出については、できるだけ民主的に、会員の意見が反映されるようにしてきた。規約上、役員の選出および就任は以下のように行われることになっている。

- ・役員候補者指名委員会をつくる
- ・委員は、各学級から1名選出する。

本校の場合、通常学級18クラスから各1名と特別支援学級は1名の19名が選出される。教員は7名が選出される。合計26名で役員候補者指名委員会が構成される。

選出手順は、

- ・各学級のPTA話し合いと投票等を行い、役員候補者を選出する。教員側も話し合いをして、候補者を選出する。
- ・役員候補者指名委員会に各学級、教員から候補者を持ち寄り、話し合いや投票等を行い決定していく。
- ・交渉委員をつくり、委員会で選出された候補者に立候補を促していく。最終決定は、総会とする。

3. PTAの具体的活動

3. 1. PTA実行委員会

本校のPTA実行委員会は、各学級から2名選出されている。委員は、役員からの提案を承認するだけでなく、PTA活動を計画し実行する。実行委員会は一ヶ月に一度（第1木曜日の午後）開催される。2010年度のある月の実行委員会は、次のような内容であった。

第〇回PTA実行委員会 議題

1. あいさつ
2. 各部からの報告
3. 学級PTAから
4. PTA研究会の構想
5. 役員会より
6. 教職員から
7. 学校保健委員会報告
8. その他
9. 新学習指導要領と付小の教育課程づくり

他の小学校のPTAと比べ、議題内容は、大きく変わらない。違うとすれば、9の「新学習指導要領と付小の教育課程づくり」という項目があることである。これは、本校では、「学び合えるPTA活動」ということを合言葉にし、できるかぎり毎回の実行委員会で、保護者と教員とで学習できる内容を入れるということからきている。

2009年度から2010年度にかけては、2009年3月に新しい学習指導要領が告示されたことを受け、「新学習指導要領と附属小学校の各教科・特別支援教育」ということをシリーズで学習した。本校の各教科の担当教員から問題提起をし、質問と意見交換する内容となっている。



また、各学級PTAからの報告については、学校への質問や要望も含まれている。

本校では、PTAが学校の下請け機関、お手伝い組織にならないように、保護者と教員とが共に学び、意見の言い合える場にしようと考えてきた。

3. 2. 各専門部の活動

本校PTAでは、実行委員が文化部、広報部、生活安全部の3つの専門部のどこか一つに所属し、日常的活動を行っている。各部においても、毎年、テーマを決め、活動を展開している。2009年度は以下の活動を進めた。

(文化部)

○テーマ 「笑顔で深めよう 文化のわ」

○活動内容

- ・体育大会のPTA競技 競技名「親玉入れ」
- ・制服、学用品リサイクル
- ・親子鑑賞会 和太鼓「倭」
- ・スクラップブック講習会

本校では、子どもの文化鑑賞会を、教員主導で行うのではなく、「親子鑑賞会」として、保護者も一緒に考えようとしてきた。「親子鑑賞会」の内容については、PTA文化部が中心になって話し合い、決定している。

(広報部)

○テーマ 「発見 どんな学校? こんな学校!」

○活動内容

PTA新聞「夢きりり」10~12号の編集

PTA新聞は学期に1度発行している。新聞「夢きりり」は、2006年度に、それまでの「学校だより」から名前を一新し、保護者が創りだしたものである。子どものこと、学校のことをよく知ろうということをもつも念頭において、編集作業が行われている。

(生活安全部)

○テーマ 「子どもを守るトライアングル

安心 安定 安全」

○活動内容

- ・Eメールによる一斉連絡網の開設
- ・エコキャップの回収活動
- ・あすか子ども安全ネットワーク（外部との連携）
- ・交通安全教室・バスの乗り方教室
- ・校内安全点検
- ・安全マップ更新

近年、日本の学校では、子どもの安全や子ども生活を考えることは、避けて通れないものとなっている。本校のPTAでも、比重が高まってきている。子どもの安全の課題は、学校のPTA組織だけで担えるものではないことを前提にしつつ、このことで保護者と教員とが話し合い、考える機会を作っていくことが必要だと確認している。

3. 3. 他団体との連携

外部団体との連携については、その団体との連携が必要であることを承認した上で、進めてきている。連携をむやみに広げることは、本部役員の負担を大きくするとともに、自校のPTA活動に制限を与えかねないからである。

・三附属PTA協議会

附属幼稚園、中学校および小学校の3つの附属学校園が集まり、協議会を作っている。協議会は、同じ奈良教育大学附属の学校園というだけでなく、幼・小・中で連絡進学を行っており、長い見通しに立って、子

どもの成長を考えていく上でも大切な組織である。また、教育条件・設備の改善については、どの附属学校園も国立大学法人奈良教育大学にお願いしていくことになり、協議会として、統一して要求していけるという利点がある。

2009年度は、毎年大学の提出している附属学校園からの「お願い」において、附属中学校校舎へのエアコン取り付けを統一要求とした。その結果、エアコン取り付けが実現の方向に大きく動いた。また、学長と三附属PTA協議会との懇談会が行われている。これは、1949（昭和24）年から始まったと聞いている。歴代の学長が附属学校園の保護者と直接懇談を行っていることは、特筆すべきことである。

なお、附属学校園は、本学の三附属校園だけでなく、近畿、全国（近畿・全国附属学校PTA連合会）ともつながっている。

・あすか子ども安全ネットワーク

5年前、奈良県で起った少女殺害事件をきっかけに、飛鳥校区（本校がある地域の校区名）の子どもたちを不審者から守るために設立されたのが「あすか子ども安全ネットワーク」である。ここには、地域の幼小中学校園PTA、自治連合会、民生児童委員協議会、少年指導協議会、万年青年クラブ連合会など、地域の住民、福祉、教育に関わる団体が加入している。本校PTAも設立当初から加入し、活動に参加している。

子どもの安全に関わる取り組みは、本校PTAの生活安全部の項でも述べたように、近年、避けて通れない、大きな課題となっている。したがって、PTAとして「あすか子ども安全ネットワーク」への参加は、欠かせないものと言える。

4. PTA研究会

4. 1. PTA研究会の歩みと意義

本校のPTA活動の中で、PTA研究会（この言葉は、保護者と教員とが対等の立場で学びあうことのできる研究会という意味で使用している）は、保護者と教員との共同を押し進める場のひとつとして、年間のPTA活動の中心的な活動として取り組まれてきた。

PTA研究会は、1973（昭和48）年に第1回が開かれている。その当時、本校教員として参加していた元副校長の藤田喜久氏は、PTA研究会の発足当時のことを次のように述べている。

『子どもを主人公にした新しい学校をつくらう』と私たちは考えてきました。

教師はすぐれた教材を精選してよい授業をしよう、子どもたちは児童会活動で学校を変えるような力を発揮してもらおうということです。そして、いつも積極的な協力をしていただいている父母にもいっそう力を出してもらって、父母、教師、職員という大人すべてが、

それぞれの任務は違っても対等の立場で子どもの教育と学校づくりをすすめようとねがいました。PTA研究会が生まれたのはこの理念に基づくものです。

父母と教師が相談して分科会を作り、学校の営みや今日の教育問題について教師の考えを話し、父母からも率直な提言をいただいて、新しい学校をつくりだしていこうということです。』

毎年PTA研究会のテーマを決めると共に、分科会・分散会、講演会など、その年の形式は、保護者の声を基にし、決定している。過去2年間のテーマと内容を記してみる。

・2008年度 テーマ「共に育つ－子どもたちの今を見つめて－」

講演 生田周二（奈良教育大学）

「今、子どもたちは」

・2009年度 テーマ「保護者のための学びの会

－視野を広げて知識を深める－」

分科会「どう変わる？子どもの学習内容

－新しい学習指導要領のもとで－」

など5つの分科会で討論

4. 2. 2010年度のPTA研究会

2010年度のPTA研究会づくりは、役員会でテーマについて話し合う7月から始まった。今年は、保護者から多くの希望が出ていた「親の子育て」についての講演会をしようということを確認した。テーマは、「共感の子育て－子育ては自分育て、親育て」とし、講演は、立命館大学教授、高垣忠一郎先生にお願いすることになった。

（保護者の意見を集める）

講演を聞くという受身の姿勢だけではなく、全校の保護者の意見を集め、講演者に伝え、生かしてもらうことにした。その他に、

・高垣先生の著作を実行委員会の保護者で読みあう。

・学級懇談会で、子育ての悩み、講演者への希望を出し合う。

ということも行った。

（講演者に意見を伝え、講演題を決定する）

講演者に、今年度のテーマや保護者から集めた意見を伝え、講演題を決める。

講演題は、「共感の子育て－自己肯定感を育てる－」ということになった。

何度も書くが、講演を聞くというだけでなく、当日まで、みんなで話し合い、みんなでPTA研究会をどう創っていくかを重視している。



(PTA研究会を終えて)

PTA研究会は11月の土曜日に授業参観日を兼ねて実施した。翌12月の実行委員会で反省をしている。参加者は、PTA会員数の4分の1であった。全国的に催しものへの参加者は、必ずしも多くないという状況から考えると、成果があったと言える。

その他の成果として、「アンケートを集めることで、PTA全体の取り組みにすることができた。また、その結果を講演者に伝え、講演に生かしてもうことができた。アンケート結果はこれからの学級懇談にも生かせるものとなった。」ことがあげられた。

5. おわりに

2008年に、東京杉並区の和田中学校のPTAが以下の方針を出した。

- ・ 区のPTA協議会から脱退する
 - ・ PTAからTが抜けて、地域本部（和田中校の学校支援組織）の現役保護者部会とし、1部門とする。
- この方針は、校長主導のものだとも言われたが、マスコミで大きく取り上げられこととなった。
- このニュースに接した時、本校の「学校だより」に、筆者は次のようなことを書いた。

和田中学校のことについては、報道だけでは、詳しい事情が十分わからないので、賛否については、判断できないところがあります。しかし、PTA活動を考える機会を私たちに提供してくれていると思います。

附属小学校では、PTAとは、保護者のみなさんと学校の教職員とが、子どもの成長について、学校のあり方について考える場、学習する場だと考えてきました。また、具体的に協力し、活動する場でもあります。ここ数年、本校は学校づくりのテーマを「みんなの学校」としています。ですから学校づくりにとって、PTA活動は欠かすことのできないものとなっています。確かに、日々

の忙しさの中では、学校にでてくる時間がなかなか取れない、PTAに十分協力できない状況もあるでしょう。PTAがどうしても必要なのか、みんなで話し合っ、参加しやすいPTAを作っていくことも求められているように思います。

戦後、PTAが組織された経緯、その後の変遷などからして、PTAは、いろいろな立場からいろいろな活動がなされてきた。また、最近では、日本の教育や子どもをめぐる現状を反映し、保護者や教員のPTA活動への参加は、必ずしも積極的なものではない。和田中学校のニュースは上記のことを端的に示したものであった。

さて、この報告で述べてきたように、本校では、PTA発足当時から、「PTAの学校づくりへの参加」「保護者と教職員との共同」ということが意識し、PTA活動を進めてきたと言える。当然、十分なものではないが、PTA規約の有り様や「PTA研究会」の活動などに、その一端が示されている。そして、こうした本校のPTA活動の方向にこそ、学校PTAの本来の姿があるように思える。

PTA活動も含め、学校での活動は、子どもたちの未来を支える活動であり、すぐれて創造的なものであると言える。本校においても、今後子どもの成長を保障していくために、また、保護者と教員との緊張関係を共同的関係に創り変えるために、一層PTA活動を充実させていきたい。

参考文献

- (1) 川端裕人著『PTA再活用論』中公新書（2008）
- (2) 山住正巳等編『教育学事典 PTAの項目』労働旬報社（1988）
- (3) 小野田正利著『親はモンスターじゃない!』学事出版（2008）等一連の著作